研究計画書
志望理由書

作成テキスト

Doors.

Copyright © 2013 Doors. All Right Reserved.

目次

大学院の研究とは 1
研究の独自性について 3
研究計画を立てる上でのポイント 7
研究計画書の目的 11
PART1 研究計画書の作成方法 14
研究テーマの設定方法 15
研究計画に関する自己分析 17
研究テーマに関連する情報の収集 18
研究計画書に記載する項目 19
研究計画書の執筆ルール 20
研究計画書の完成から次のステップへ 21
研究計画書の構成 23
PART2 例文を用いた研究計画書の作成 24
PART3 志望理由書の作成方法 35
PART4 研究計画書のその他注意点 40

SAMPLE

■はじめに

大学院入試では、「研究計画書」を事前に提出しなくてはなりません。しかし、初めての研究計画書作成で、説得力のある計画書を作成することのできる人は、まずいません。また、各々の大学院によってその様式は様々です。簡潔に要旨だけ書くケースや８ページ以上の詳細な研究計画の提出を求められる場合もあります。

さらに、研究計画書は学術的な研究活動を行うことが前提にあるという点で、大学の論文やビジネス文書とは作成方法が大きく異なります。実際の作成過程では、文書の書き方を把握していることはもちろん、大学院での研究作法を理解しているか否かで、完成度に差が出てきます。

このテキストの特徴は、研究計画書の書き方だけでなく、基本的な研究に関する考え方もカバーしている点です。研究計画書の書き方についての書籍もありますが、大学院での研究の捉え方と併せて解説されているものはほとんどありません。そして、基本的な研究の認識がしっかりしていない研究計画書は、いくら文書の書き方を工夫しても、底の浅いものとなってしまいます。

研究計画書の作成は早いうちから始めましょう。計画書の作成は面接の準備にもつながりますし、筆記試験で研究計画について問われる場合もあります。研究計画書を入試の中心に位置付け、研究分野、対象の絞り込み、分析方法、問題意識を十分に煮詰めておくことが必要です。

最後に、研究計画書の出来が合否を分けるといっても過言ではありません。したがって、完成までのプロセスでは、様々なことを考えたり、悩んだりすることがあると思います。研究計画書の作成を学習機会と捉えることができたのならば、みなさんの大学院生活にきっとその経験を活かすことができるでしょう。

このテキストを存分に活用していただき、研究計画書とは何かを知り、みごと志望校に進学できるよう共に歩んでいきましょう。

SAMPLE

Chapter1 Section 01	重要度▶ ＊＊＊	研究の基礎知識

大学院の研究とは

研究計画書の作成において、大学院の研究とは何か、把握する必要があります。
ここでは、基本的な大学院の研究について説明します。

研究計画書より、まず研究計画そのものを

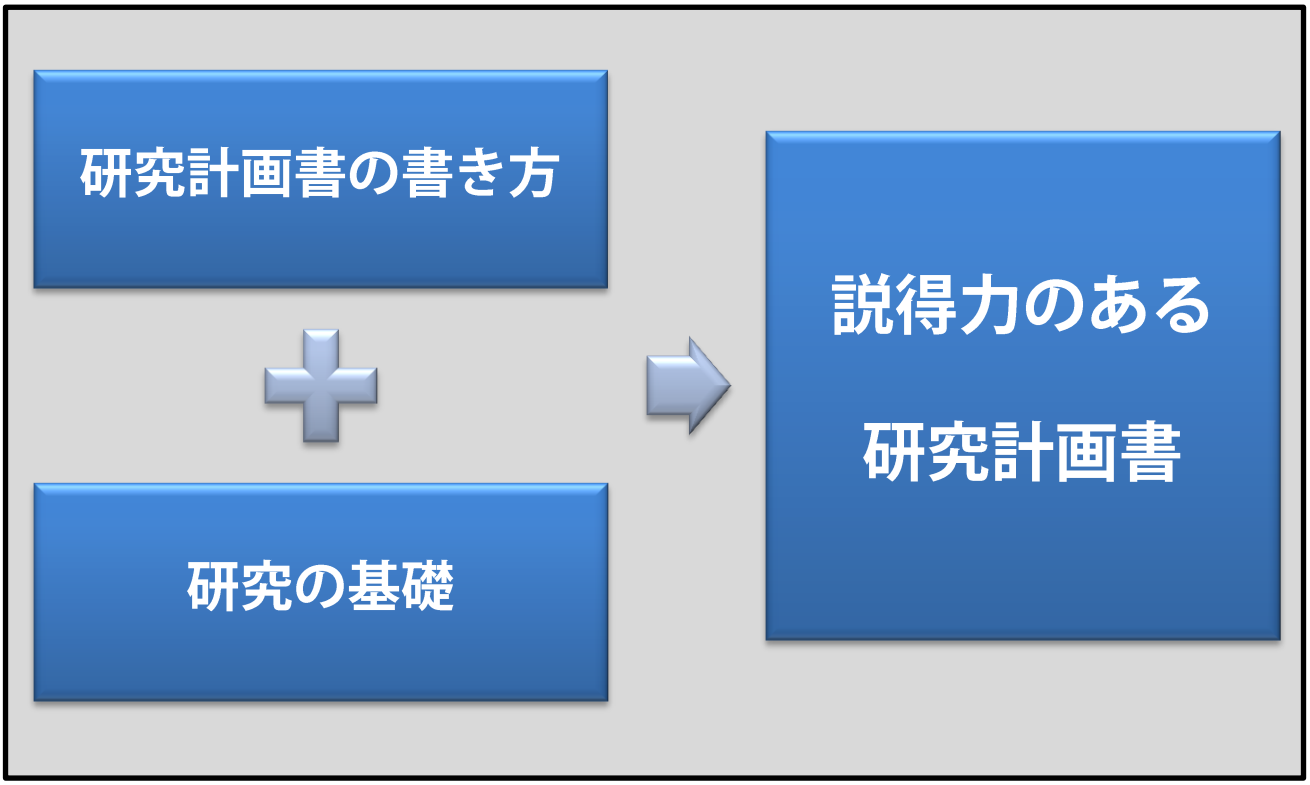
研究計画書を書き始める前に、そもそも「*大学院修士課程の研究とは何か*」ということをしっかりと理解する必要があります。

なぜなら、合否を決める大学教授たちは研究計画書や面接を通して受験生の研究に対する考え方を把握しようとするからです。

実際、みなさんが研究計画書を書き進めていくと、書き方のノウハウではなく、むしろ研究計画自体をしっかりと練らなければならないことに気が付くでしょう。

そして、研究計画について考えるためには「*研究とは何か*」ということをよく理解していなければならないのです。

SAMPLE



研究の考え方

大学院での学習を一言で表すと、

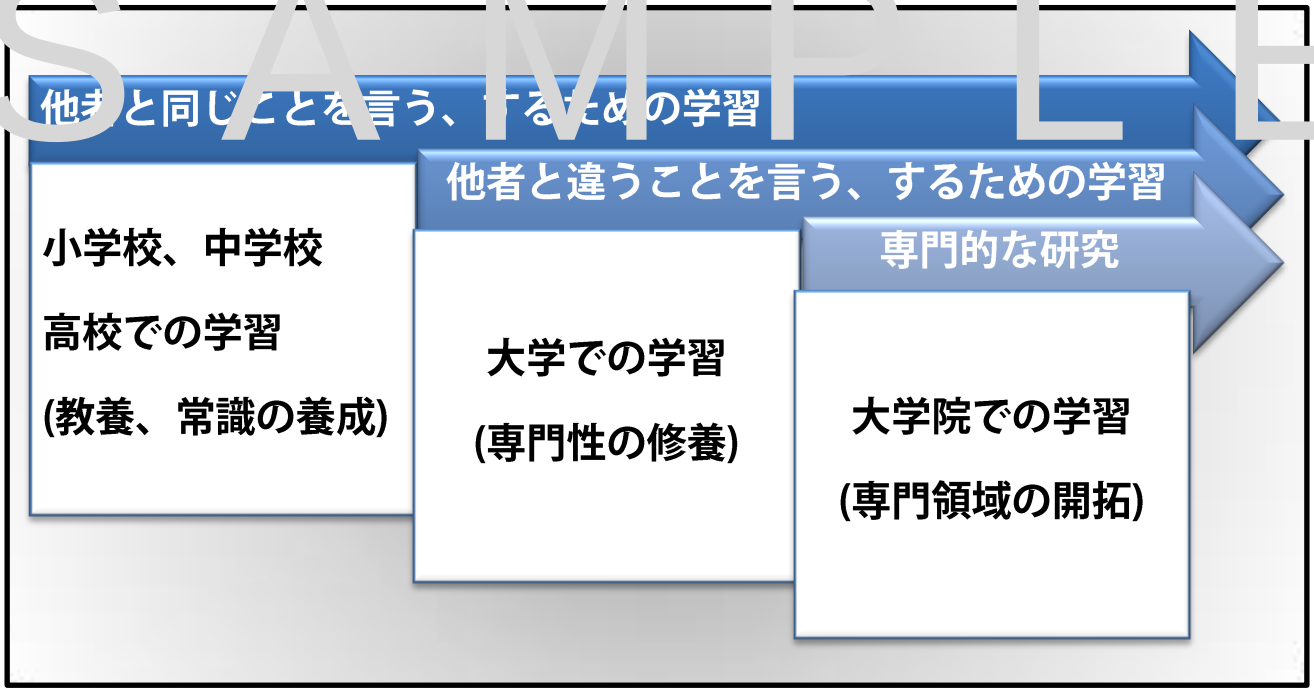
「他者の言動から学び、
他者と異なることができるか。」

みなさんは、小学校、中学校、高校で、「一般教養、常識」を学ぶための勉強をしてきました。そして、大学に進み「一般教養、常識」に加え、「専門性」を身に付けることとなります。

つまり、大学で求められことは「他者と同じことが言えるか」ということが半分、加えて「他者と違うことが言えるか」ということが半分ということになります。

大学院では、他者と同じことを言うにしても、違うことを言うにしてもより高い水準が求められます。また、大学院での研究では「一般教養、常識」、「専門性」に加え、「独自性」が求められることとなるのです。

SAMPLE



このように、大学院では*他者と同じことと違うことの中間で、バランスを保ちながら独自の研究を行う*こととなります。

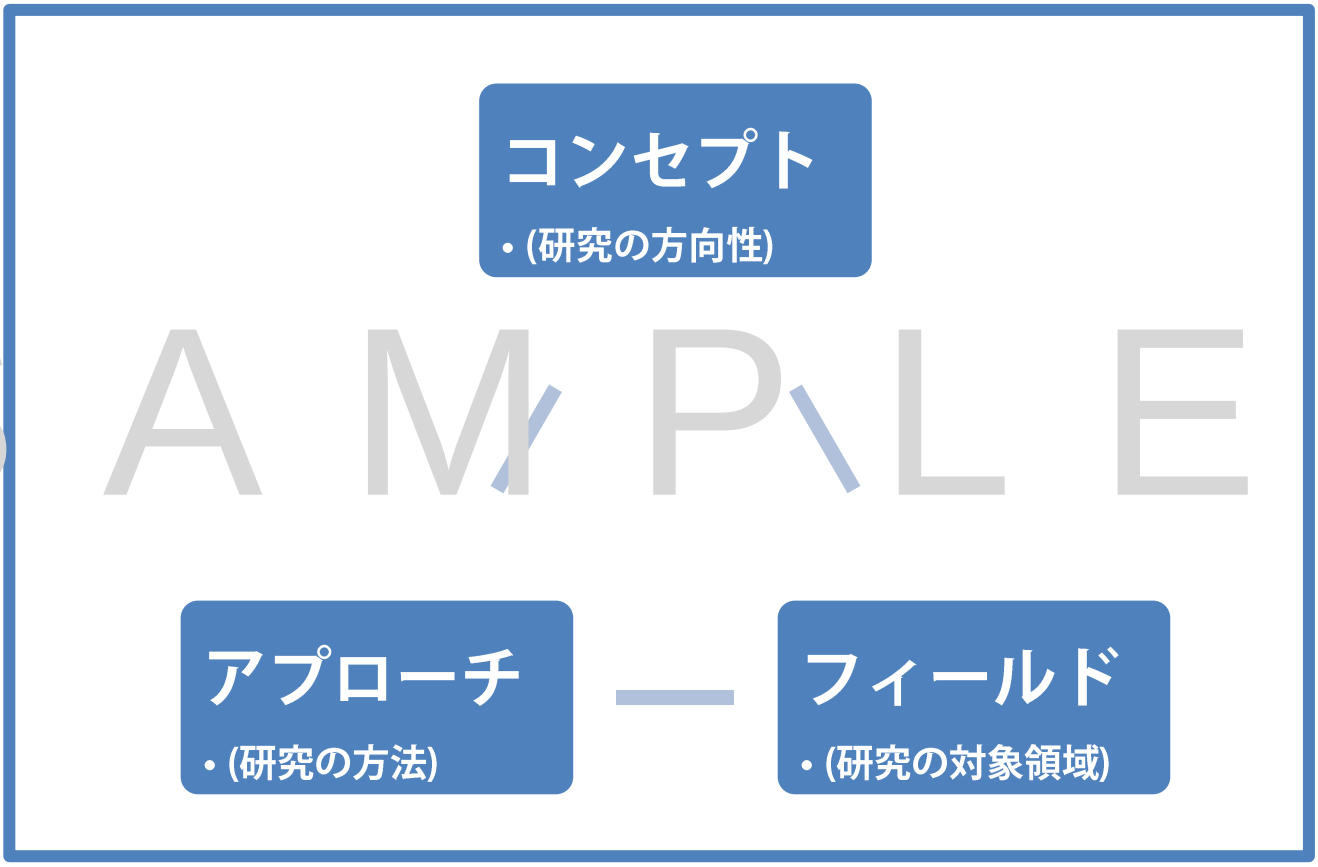
これが意味することは、先行研究や定説を土台として押さえる一方で、新たな発展の可能性を追求し、学術的な付加価値を生み出していくということなのです。

研究の独自性について

大学院では、今まで誰もやったことのない研究を行うことが求められます。ここでは、どのようにして、誰もやったことのない「独自の研究」を行うのか解説します。

研究の 3 つの要素

すべての研究は、必ず以下の 3 つの要素を持っています



SAMPLE

そして、*この 3 つの要素のうち、どれか 1 つを今までの研究と異なるものへ変更する*ことで、「独自の研究」を行うことができます。

次のページで、「独自の研究」を行う具体的な方法について、説明していきます。

研究をオリジナルのものにするには

「研究の 3 つの要素のうち、1 つを変えることによって、研究の独自性を確保する」ということについて詳しく説明するために「アンケート調査による都心部の高齢者に関するマーケティング研究」というテーマを例にして見ていきましょう。

例→「アンケート調査による都心部在住の高齢者の購買意欲形成プロセスの考察を通し、高齢者市場に関する現状と今後について調査する。」

①他者によって行われた研究(先行研究)

このように、自分がやりたいと思っている研究の独自性について考えるときには、先行研究がどのような要素を用いて行われたのか注意深く見ていく必要があります。

まず、*「研究領域(フィールド)を変えることで、研究の独自性を確保する方法」*を見ていきます。

②研究の対象分野・領域を変更するケース

東京の高齢者市場マーケティングについて紙面アンケートで調査した研究はあるが、大阪市場を対象とした研究がないので大阪市場についてリサーチする。(コンセプト、アプローチを固定し、研究領域を変更)

SAMPLE

研究の対象領域を既存の研究とは異なるものにします。主に、地域、業界、分野、領域などの変更がこのケースに当てはまります。

次に、「*研究方法(アプローチ)を変えることで、研究の独自性を確保する方法*」を見ていきます。

③研究・調査の方法を変更するケース

今までの研究のコンセプト、フィールドを固定する、研究方法については、アンケートによる社会調査ではなく、高齢者のコミュニティに参加し、聞き取り調査を主体とした参与観察を行う（コンセプトとフィールドを固定、アプローチを変更する)

研究のアプローチ方法を既存の研究とは異なるものにします。主な研究方法としては、質問紙法、観察法、面接法などがあります。

SAMPLE

最後に、「*研究の方向性(コンセプト)を変えることで、研究の独自性を確保する方法*」を見ていきます。

④研究のフレームワークを変更するケース

都心部の高齢者市場に対して、アンケート調査を行い、メディアによる情報が消費者にどのような影響を及ぼすのか、社会情報学の見地から研究を進める（研究アプローチ、フィールドは従来と同様にコンセプトを新しくする)

研究のコンセプトを既存の研究とは異なるものにします。研究のコンセプトを変えていくには学術的な観点を変えるという方法があります。

例→「経営学的観点から農業の活性化を促す方法を探る」という研究を行うときに、
経営学の観点から見ていた研究を地方行政という観点に変えてみる。
→「行政学(地方行政)の観点から農業の活性化を促す方法を探る」

達成したい研究目的(農業の活性化)は同じだが、経営的な観点から達成するのか、地方行政の観点から達成を目指すのかという違い。

まとめ

ここまで説明してきたように、研究を構成する要素の内の 2 点を固定して残りの 1 点を変えてみるとどうなるか、というスタンスで考えてみることが重要です。そして、修士課程での研究では、3 つの要素の内の 1 つを変えることができれば、十分です。

ただし、自分が行いたい研究分野における先行研究については、慎重に検討する必要があります。自分がオリジナリティのある研究だと思っていても、実は既に行われている研究であったり、客観的に見るといずれの要素にも変更が加えられていないと思ったことが生じてしまう場合があります。

先行研究については、どれ程調査しても調べ過ぎているということはありません。2 つや 3 つの先行研究を見て、結論を出すのでなく、代表的な先行研究については、出来るだけ多く調べ、正確に読み解くようにしましょう。

SAMPLE

研究計画を立てる上でのポイント

研究計画を立てる上で、重要となるポイントについて解説します。
説得力のある研究計画書を作るためには研究のツボを押さえる必要があります。

1．「理論」と「実践」のバランスを保つ

研究活動では「*理論と実践*」のバランスをとることが重要です。

「理論」とは、経験則や既知の事実をベースとした体系的知識のことを指します。

「理論」の比重が大きくなってしまうと、現実とのギャップが広がり、現実感のない(実用的でない)研究結果に終わってしまいます。(大学教授の研究によく見られるケース)

一方で「実践」は、今まで行われてきた研究に学術的な付加価値をつける作業のことを指します。

研究活動における醍醐味は「実践」にあるのですが、学術的な探求心が先行していても、先人の知識をないがしろにしていては、深みのある研究にはなりません。(モノによっては研究の意味がないものになってしまう)

いずれにせよ、有意義な研究活動を行うためには、先人たちが積み上げてきた「理論」と新たな世界を切り開いていく「実践」のバランスがとれた研究を行うことが重要となります。

SAMPLE

2．実行可能性の予測

次に、研究の制約について考えていきます。修士課程は通常２年間という限られた期間で研究成果を出さなければなりません。企業に勤めながら大学院に通うとなると、さらに研究の制約は増えていきます。

研究の実行可能性は、時間・資金・大学院の環境・指導教授との関係等々によって、変化してきます。また、研究には終わりがありません。進めていけばいくほど、様々な発見や問題点が出てくるので、いくらでも研究を行うことができます。

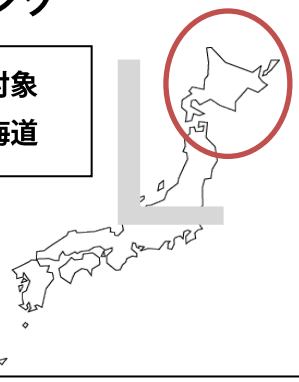
しかし一方で、修士過程は、限られた範囲で成果を出す研究者としての訓練期間でもあります。あれもこれもと研究を行うと収拾がつかなくなってしまうので、研究計画を立てる上では、「ヘッジング」という技術を使う必要があります。

「ヘッジング(囲い)」とは、限られた期間の中で行う研究の範囲を理由ある形で限定し、研究対象を明確にすることを意味します。下記の図で具体例を見てみましょう。

例→日本の地域別食糧自給率に関する研究のヘッジング

研究対象
→日本全国

研究対象
→北海道



２年間で日本全体の調査を行うことは困難。先行研究の調査や現場へのインタビュー等、やることが多くなり、漠然としたものになってしまう。(実現可能性に疑問)

時間的な制約を考慮し、あえて研究範囲を限定することで実現可能な研究となる。また、研究の焦点を絞り、密度の高い研究になる。(現実的な研究)

SAMPLE

この例では、研究上の制約を踏まえ、研究範囲のヘッジングを行いました。この他にも正当な理由を提示することで制度、手法、社会、倫理、時間など様々な形でヘッジングを行うことが可能です。

このヘッジングの概念を覚えておくことで、研究成果の落としどころを明確にでき、実行可能な研究計画を立てることが可能となるのです。

3．調べ尽くせ、考え抜け、導き出せ

研究計画を立てるときに、具体的な研究活動についてイメージすることも重要となります。研究における 3 つのステージについて見ていきましょう。

調べる

- **研究資料を徹底的に調査。築かれてきた知見を整理し、基礎を学ぶ。**
- **先行研究でどこまで明らかにされているか把握する。**

考える

- **調べた研究資料の活用方法を考える。収集した情報を次につなげる。**
- **どのような観点から研究資料を用いるのか、発展可能性をイメージ。**

導く

- **調べ、考えた結果から自分の研究の学術的意義を導き出す。**
- **研究のオリジナリティ(独自性)を提示する。ここから研究活動の開始。**

SAMPLE

研究計画を机上の空論で終わらせないためには、徹底的な事前調査を行い、多様な観点から現実をしっかりと見定める努力をする必要があります。

4．どうしたら研究が成功といえるか?

研究を行う上では、結論を早急に出せばいいというわけではありません。また、結論が分かっているものは研究する必要がありませんし、研究するまでもなく、結果を予測することが容易に可能であるのなら学術的な研究意義はないと言えるでしょう。

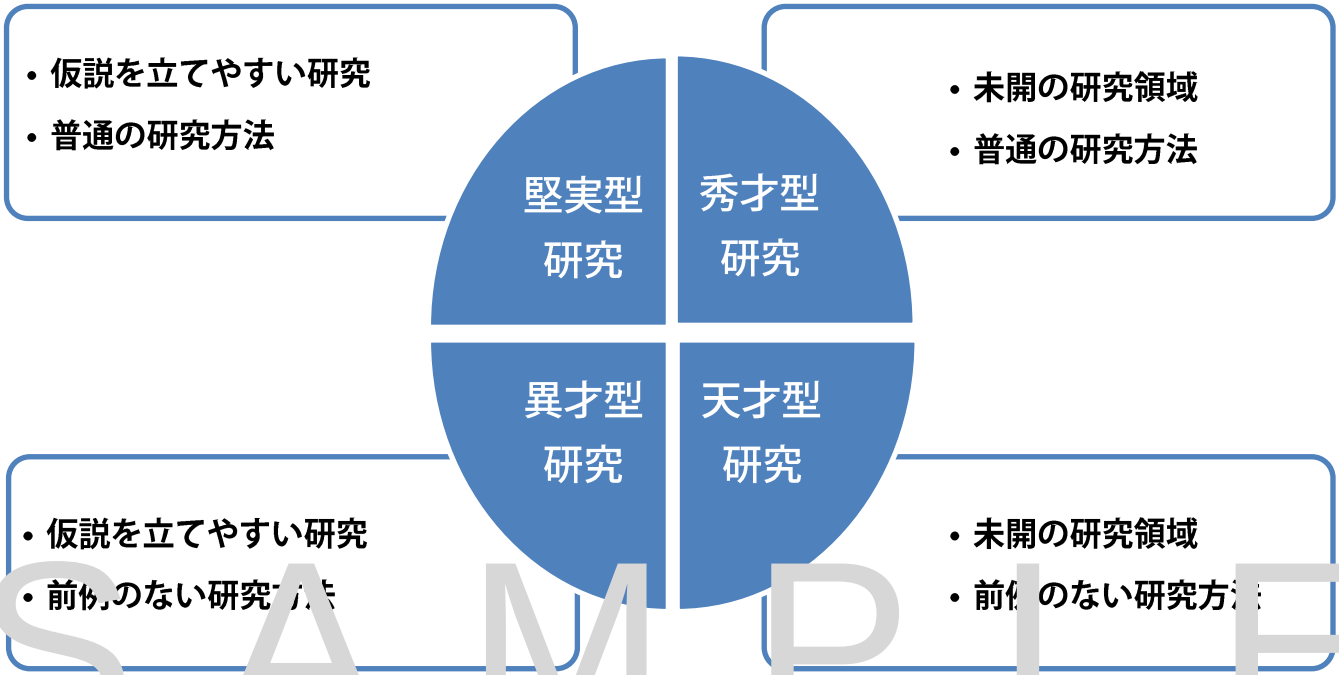
ここで、考えなくてはならないことは、*どのような研究成果(アウトプット)を出していくことが社会的、学術的に意味のあるもの*になるのかということです。

とはいえ、研究計画の段階では、最終の研究論文提出までのプロセスが把握できていれば問題はありません。

5．自分らしいタイプの研究

みなさんは大学院に進むことで、研究者を目指すことになるのですが、どのような研究者になりたいでしょうか。

以下に、代表的な４つのタイプの研究者像を紹介します。



SAMPLE

基本的には、初学者であれば「堅実型研究」のスタイルで、研究活動に取り組めば、問題はありません。むしろ初めての研究で、他の３つの研究スタイルに取り組むには、かなりの学習が必要となります。

初学者の方は、まず確実性を重視する堅実型研究を進め、その後に、他のタイプの研究スタイルを目指していくことを考えていけばいいでしょう。

とにかく、研究計画を考えるときに無理をせず、自分にあったやり方、自分らしいやり方を中心に据えていきましょう。そうすることで、時間の短縮やストレスの軽減が可能となるからです。

一言アドバイス

４つの研究スタイルを紹介しましたが、どの研究スタイルが良い、悪いということでは決してありません。大学教授でも、堅実型の研究スタイルで研究をする方もいますし、探求心によって、常に研究スタイルは変わります。大切なのは、どのように研究することが、自分の知的好奇心を満たすベストな方法なのかということです。

研究計画書の目的、使い道

大学院入試において、受験生の研究計画書を大学院側がどのように捉えているか解説します。試験官の着眼点を把握することで、無駄のない計画書作成が可能となります。

これまでの解説で、基本的な研究について、理解していただけたと思います。次に研究計画書の内容がどのような目的で用いられるのか見ていきます。

研究計画書の使用目的

大学院入試の試験官は研究計画書から何を読み取るのでしょうか。以下の項目を見てください。

- □ **大学院で学ぶだけの素質**
- □ **大学院で何を学ぼうとしているのか、知るための資料**
- □ **大学院に対する認識**
- □ **目的や問題意識の程度(意志・意欲)**
- □ **大学院側が、受験生の要望に応えられるか**
- □ **面接で用いる資料**

SAMPLE

このように、大学院は研究計画書を通して、受験生の研究者としての素質を判断するのです。

そして、同時にこれらの項目に対して明確な答えを提示し、研究ができるレベルにあることを証明することで、合格の可能性は高まるのです。

ただし、入試の段階で要求されるのは資質の部分だけであることを覚えておいてください。あまりにも隙のない計画書を提出すると、かえって融通の利かない人物だと思われ、印象が悪くなってしまいます。